

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①子どもの思いや願いを大切にし、子どもたちが学習の見通しをもち、自ら判断して選択しながら学習を進めることができるようにする。②ICTを活用しながら、取材した資料や調査した事柄などを整理したり、自分の考えを発信したりすることを大切にしていく。③生活科・総合的な学習の時間の研究を通して、自分のまちの魅力に気付き、人とのかかわりを取り入	①子どもたちが学習の見通しをもち、振り返りを通して自身の成長を実感できるような課題解決型の学習を進めたことで、学習意欲を高めたり協働的学習に取り組めた。②生活科・総合的な学習の時間を中核とし、「豊岡のまち」と積極的なかかわりをもった教育活動を推進することができた。しかし、「豊岡のまち」を中核に進めてきた学習が「まちの魅力」「まちを	B
人権教育	①たてわり活動やベア学年活動による異学年交流をより充実させることで、相手を思いやる心を育む。②子ども会議のテーマについて話し合い、子どもの意見を積極的に取り入れることで、「誰もが」「安心して」「豊かに」過ごせる学校づくりを推進する。③あいさつや返事、適切な言葉遣いについて大切さを繰り返し伝ええるとともに保護者や地域と連携を図りなが	①日常生活の中で相手を思いやる行動場面が増え、たてわり・ベア活動等を通した取組が浸透してきている。高学年のリーダーシップが育ち、低学年は高学年にあこがれをいただく雰囲気が出てきている。②あいさつや言葉づかいを児童は自分から意識して取り組み、前向きな変化が見られている。よりよい	B
健康・安全教育	①データを活用し、年間を通した体力づくりを推進するため、運動に慣れ親しむ機会を増やす。②校医との連携を図り、歯・口の健康づくりを推進し、自らの健康についての意識を高める。③栄養分野についての理解を深め、自らバランスの取れた食事をとれるよう、栄養教諭を中心に食育を推進する。④防災訓練や交通安全推進校を活用した交通安全の取	①ロング昼休みやベア活動等を通して運動に慣れ親しむ機会を増やしたり、校医と連携した歯・口の健康づくりを推進したりしたことで、自らの健康についての意識が高まっている。②防災訓練や交通安全の取組を通して、児童は自分の命を守ろうとする意識を高まってきており、今後も継続的な訓練や全校での取組の定着をはかっていく。	B
自分づくり教育 (キャリア教育)	①どの学習においても子どもの思いや願いを実現した達成感を大切にし、一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。②自分づくりパスポートを活用し、自分の成長と向き合う機会を確保し、自己肯定感の向上を図る。	多くの児童が自分自身を肯定的に捉え、学校生活の中で前向きに成長しようとしている姿が見られている。目標やふりかえりを意識した活動が一定程度定着しており、今後は自分づくりパスポート等を活用することで、自己有用感や自己肯定感のさらなる向上に取り組む。	B
いじめへの対応	①「いじめ防止基本方針」のもと、いじめ防止対策委員会等で、未然防止や、早期対応で組織的な解消を図る。②アンケートやYPAセサメントの分析、毎日の心の健康観察(スタディナビ)等により子どもの心の変化を把握し、支援する体制づくりをする。③いじめ防止等の研修を充実させ、全教職員のいじめに対する意識を高める。④子ども会議等、子どもがい	児童・保護者が相談しやすい関係づくりや日々のアンケート等を活用しながら心の変化や児童の人間関係の実態を把握し、学校が組織的にいじめの未然防止や早期対応に取り組んできた。今後も、いじめを許さない風土づくりを目指す。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームでは、メンバーと学び合いを重ね、資質・能力の向上を図る。②ミドルリーダーを中心に学校運営の改善をプロジェクトチームで行うことを通して、リーダーシップやマネジメント力の向上を図る。③ICT等を活用して、事務の効率化や情報共有の方法などの業務改善をプロジェクトチームを中心に組織的に推進していく。	ミドルリーダーが中心となってプロジェクトを運営することで、学校運営に携わる意識が根付いてきた。プロジェクトに学年1名は参加することやICTを活用することで、情報の共有や業務の効率化が進んできている。	A
児童生徒指導	①「とよおかスタンダード」をもとに、学校のまきまりについて共通理解を図る。②教育相談や心の健康観察(スタディナビ)、日頃からの声掛けなど、子どもの思いに寄り添った支援に取り組む。③心の安心PJにおいて、児童指導に関する問題を把握し、早期の対応を図るようにする。④学年やブロックで問題を共有し、組織的な対応を図る。	日常的に教職員で情報共有に努め、トラブル発生時は担任一人で抱え込まないよう、複数の職員が連携して組織的な対応に取り組んだ。「とよおかスタンダード」を意識して生活していると児童の多くが感じており、日常の指導が着実に行き届いていることがうかがえる。さらなる規範意識の向上に取り組んでいく。	B
特別支援教育	①児童支援専任・特別支援教育コーディネーターを中心に、地域、保護者、専門機関等と連携し、困り感のある子どもや家庭をチームで支援していく。②支援が必要な子どもの理解と、支援方法や交流学习について心の安心PJや特別支援教育校内委員会等で共通理解や課題解決を図る。③特別支援教育の理解を深めるために、教職員の研修に取り組	児童支援専任・コーディネーターを中心に、保護者の意向を踏まえつつ、困り感を抱える児童に対して、心の安全プロジェクトチームにて、学習形態や支援方法について組織的な支援に努めた。毎週、配慮が必要な児童を教職員での情報共有や、非常勤講師や支援員を含め、多くの目で児童を見守る体制を整えた。	B
地域連携	① 地域コーディネーターやその他機関との連携を図り地域の力を教育活動に生かした仕組みづくりを推進する。② ホームページ等を活用して積極的に情報発信を行うことで、学校の教育活動の共通理解を図り、保護者や地域とともに子どもを育てる協力体制を構築する。	すぐえるやホームページ等で学校からの情報発信に努めたことで、学校の教育活動への保護者への理解が進み、ボランティア等で参画しやすい環境が整ってきた。学年や学級単位で地域や外部機関と協力した教育活動の充実が図られてきている。	A
a15	a25		
ブロック内評価後の 気付き			
学校関係者 評価	ふれあい給食の再開や、生活科・総合的な学習の時間を通して地域とのつながりが着実に進んでいる。地域での学習はキャリア教育にもつながり、地域側にも児童との顔が見える関係づくりへの期待が高まっている。授業改善や自分づくり教育により、児童が自身の成長を実感できる取り組みが充実している。不登校やいじめなど、様々な課題が生じているが、多様性を認め合う取組は今後も大切にしてほしい。職員と家庭が連携して取り組む姿が感じられ、引き続き、連携を図ってほしい。		

中期取組 目標 振り返り	課題解決型の学習を通して、子どもたちは見通しをもち主体的に学び、振り返りによって自身の成長を実感する姿が広がった。生活科・総合的な学習では「豊岡のまち」と関わる活動が進み、地域とのつながりが深まったが、まちの魅力理解や愛着の形成には引き続き工夫が必要である。縦割り活動をはじめとする日常の関わりから思いやりが育ち、高学年のリーダー性も高まっている。運動・健康・防災の取組も定着しつつある。いじめ防止や特別支援教育では、相談しやすい環境づくりと組織的な対応が進み、保護者とも密な連携をはかることができた。
--------------------	---

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	b1		
人権教育	b2		
健康・安全教育	b3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	b4		
いじめへの対応	b5		
人材育成・組織運営(働き方)	b6		
児童生徒指導	b7		
特別支援教育	b8		
地域連携	b9		
a15	b10		
ブロック内評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
人権教育	c2		
健康・安全教育	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
児童生徒指導	c7		
特別支援教育	c8		
地域連携	c9		
a15	c10		
ブロック内評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--